ビッグデータ時代における中国の都市基層社区ガバナンスの革新

――南京市棲霞区を例として

肖　萍
（訳＝飯田直美）

一　研究背景

中国の社区建設は「社区管理」から、主体が多元的に参加する「社区ガバナンス」へと転換した。社区ガバナンスは、国家構築過程における行政指導型モデルでもなく、社会の自己組織化過程における自主型モデルでもなく、命令的な処理、個人の自由選択、コミュニティグループの協商民主など、複数を結合させたガバナンスモデルである。基層社会のガバナンスは、「三社（社区居民委員会、社会組織、ソーシャワーカー等）の連動」「院落（集落）自治」「社区の他分野が融合した共同ガバナンス」「社区協議型ガバナンス」「社区基金型ガバナンス」など、さまざまなモデルによる革新の実践を続け、社会転換期の多様なニーズの変化や問題点に適応することによって、一定の区域内、もしくは一定の主観的、客観的条件下において大きな成果があった。しかし、社区への参加が弱い、社区に多くの主体が併存する、資産不足や業主委員会（分譲マンションの所有者管理組合）の維持が困難など、長期的に存在する基層の問題に対応するには、いまだ根本的な解決案を得られ

ていない［閔学勤 2017b］。社区ガバナンスの過程で重要な主体の一つである住民の「社区不在」、つまり社区運営活動への無関心は、社区ガバナンスの健全な発展に大きく影響している。社区住民の参加不足は、主に住民の参加意識が薄い、参加規模が狭い、参加層が薄いことにみられる。参加内容に厚みが足りないと、住民参加の社区事業は衛生清掃、治安、レクリエーションのような非政治的な活動に限られ、民主選挙、民主監督、民主決定などのような踏み込んだ内容の事業への参加は全般的に不足し、社区ガバナンスに参加する住民が多くても、社区事業の決定や監督に参加する状況は比較的少ない。

中国基層政府は早くから「インターネットプラス」のガバナンスモデルを始めた。政府の公式ホームページやミニブログ（weibo）やアプリをはじめ、最近では各基層政府のウィーチャットグループやウィーチャットアカウントがあり、たとえば杭州市上城区の社区で構築中の「二化四網六平台」、深圳市羅湖区のモバイル「家園網」、上海市楊浦区の社区法律サービスアプリなどがある［閔学勤・賀海蓉 2017］。技術の発展がガバナンスの革新を推進し、技術の管理が現代公共ガバナンスの基本形態となった。現代の情報技術の発展は社会ガバナンスの領域にも「管理技術」の変革をもたらした。特に新世代型の情報技術の発展に伴い、インターネット、ビッグデータ、IoT、クラウドコンピューティングや人工知能技術など、各種の新しい管理技術の運用が生まれ、常に新しいものに取って代わっている。eガバメントからデジタルガバメント、さらにスマートガバメントへと、公共ガバナンスの支配戦略の改善、改良がなされている。さらに技術ガバナンスの想像力を刺激し、情報技術の応用を推し進め、技術ガバナンスの応用の場を切り拓いた［韓志明・雷葉飛 2020］。技術の投入が社区ガバナンスのステークホルダーに民主的な技術、方法を運用可能にさせた。また、公共事業について充分な検討を進め、公共理性にあう集団決定を形成し、さらに組織的な実施を可能にした［唐鳴・李夢蘭 2019］。二〇〇九年、「スマートシティ」概念が初めて国内に入ると、「スマート社区」の建設も急がれたが、初期段階では多くの地方がAI社区あるいは社区のAI化管理をスマート社区と混同していた［王萍・劉詩夢 2017］。しかし「スマート社区」とは、都市社区ビッグデータの情報化が発展することによって、社区管理、社会サービス、行政機能の三者が共同して発展の実現を目的とする都市社区の新しい形態である［朱琳・万遠英・戴小文 2017］。

ビッグデータ時代はソーシャルガバナンスに新しい機会と挑戦をもたらした［張文・王強・喬智・陳明達・唐玉春・曹立 2014］。データの採集、使用、共有は伝統的なデータの応用であり、情報化構築の第一次革命である。コ

リジョン（複数の送信でデータが衝突する現象）、プッシュ型情報配信や組み込みＡＩはビッグデータ時代におけるＡＩの応用であり、情報化構築の第二次革命である［張文・王強・喬智・陳明達・唐玉春・曹立 2014］。ビッグデータには戦略性、資産性、社会性などの特徴があり、ビッグデータを都市社区ガバナンスに活用すると、ガバナンスの理念、方式、内容、手段、審査基準、情報のフィードバックなどにさまざまな影響を生みだす［趙汝周・岳鳳蘭 2015］。社区は情報資源を管理する独立したプラットフォームを媒体として、相互に関連し、データを「声」にし、民衆と政府をつなぐプラットフォームのインターフェイスとなった［袁野 2015］。新しいメディア時代の到来にともない、オンライン政治、情報による国民福利、ビッグデータによる行政補助は国家ガバナンスの重要な手段となった［朱瑞 2016］。「インターネットプラス」戦略は、ツールとしての特性だけでなく、より強調されるのは、生産と生活の中で発揮される推進力である［聶磊 2017］。近年来中国は「インターネットプラス社区」計画の実施を通して、インターネットと社区ガバナンスのサービス体系との強い融合を促した。基層の党組織、政府、社会、市場などの多様な主体のそれぞれ異なる機能、資源、責任を最適化し、さらに社区住民の密切な日常的交流、公共事業への参加、協調活動の展開、近隣互助の組織を指導し強化した［陳栄卓・劉亜楠 2019］。グリッド管理（網格化管理。社区内を小さなエリアに区切り、エリアごとに責任者を置いて管理するしくみ）は、ビッグデータ技術推進の下で、我が国の基層社会ガバナンスが社会転換に適応するための管理とサービスの革新である。全国の多くの社区がこのように党委員会の指導で、トップダウンの政府ガバナンスとボトムアップの社会自治との良質な相互作用と、管理とサービスを統合させた多元的なガバナンスモデルを採用している。たとえば上海市浦東新区、江蘇省常州市天寧区、湖南省岳陽市岳陽楼区［劉光明 2016］、遼寧省撫順市高山社区［李拔萃 2016］、江蘇省無錫市崇安区［徐向林 2016］、安徽省合肥市濱湖社区［王素侠・孟凡会 2017］、深圳市福田区［肖丹 2017］などである。

中国都市の社区ガバナンスには、ソーシャルメディアの幅広い活用とソーシャルメディアに対するビッグデータの徹底分析を切り離すことはできない［呉青熹 2017］。都市社区ガバナンスは技術に頼り過ぎると、「技術余剰、文化不足」の不調和な現実的苦境があらわれる［何紹輝 2019］。この他、「正確さの誤り」「ビッグデータの傲慢」「使用範囲の有限性」のようなデータの安全性等の問題により、ビッグデータのガバナンスモデルそれ自身が限定的な存在である［李外禾 2019］。

二　事例説明

南京市棲霞区は郊外に接しているが、都市部産業の郊外への移転、「大学城」の建設や都市化が後発したことによる優位性から、その発展速度は想像を超えるものがある。棲霞区は九つの街道（五種類九一の都市社区、二九の村民委員会）と南京経済技術開発区と南京仙林大学城の三つのブロックで構成されている。常住人口は約七二万八九〇〇人、さらに大学の教員・学生、企業の職員・労働者などの流動人口が四〇万人近い。複雑な社会構造で、人々のニーズは多様かつ頻繁に発生しており、社会ガバナンスの役割は重く、伝統的な方法での継続は困難であった。

棲霞区は近年来の急速な発展に対応するため、モバイルインターネット時代に適応したガバナンスの転換の必要に迫られ、インターネット情報技術を用いて社会ガバナンスの推進を急いだ。棲霞区党委員会及び政府は都市の基層ガバナンスの革新的サービスを積極的に模索した。インターネットの均一性、相互性、迅速性の優れた特性を利用し、グリッド社会のサービス管理機能と重ね合わせ、区委員会の各部門、社区組織、区内駐在の企業・事業団体、不動産会社、社区住民と協同して、社区ガバナンス問題を解決し、住民のニーズに応じるためのウィーチャットグループ、公式アカウントなどのプラットフォームによる「掌上社区」（てのひら社区。後に「掌上雲社区」てのひらクラウド社区）を誕生させた。掌上雲社区はまさに棲霞の経済社会発展の不均衡などの実際的な問題に対して、積極的に新技術、新手段を打ち立てて運用を始めた、政治と社会が協力して共に治める、効率良く便利なプラットフォームである［金台資訊 2020］。

二〇一〇年六月、仙林街道は全国に先駆けて「グリッド社会サービス管理システム」を始動した。南京市仙林街道の「グリッド」の機能は全般にわたり、ほぼすべての行政機能（社会管理や公共サービス）は「グリッド」に入れられた。管理機能だけでなく、サービス機能もあり、しかも「サービスを第一」とする［童星 2012］。これをベースに二〇一六年、「掌上雲社区」はオンラインのガバナンス総合プラットフォームを立ち上げ、あわせてオフラインではグリッドと融合させることで、オンラインでは棲霞の現代ガバナンス改革の成果を集積して発信し、オフラインではグリッドシステムにより効果的な対応を実施した。まさに社会ガバナンスサービスの「ラストワンマイル」を乗り越えた［金台資訊 2020］。南京市棲霞区の「グリッドプラスインターネット」のデュアルネットワークガバナンスの流れが、掌上雲社区のビッグデータによる現代ガバナンスモデルを構築した。社会ガバナンスの情報化、共同化の水準

は著しく向上し、区内の人々の満足度は増加し続けた。一〇年間で棲霞区の基層ガバナンスは改革のブランドとして革新を極め、名声はますます高まった［仇惠棟 2020］。ボランティアサービスの「預け入れ、引き出し、貸し付け」の規則や激励制度を作った。規格化を基に、すべての部門をサポートし、情報化することによって、「非対面の審査・承認」は、区街社区（村）三級の行政サービスシステムの面で際立っており、全国で初めて「非対面の審査承認」の実施許可が出された。棲霞では「一度も出かけずに用事が済む」が現実となった。

㈠　情報化の段階――「掌上社区」

棲霞区の「掌上社区」事業の試験的業務は、二〇一六年一〇月より展開し、翌年二月に終了した。まず各街道から三社区を選び、全区で合計九街道二六社区がモデルとなり、試験的に「掌上社区」が実行された。二〇一七年に「掌上社区」はすべての社区をカバーすることを実現し、グリッドごとにウィーチャットグループと公式アカウントを作ることで、「グリッドプラスインターネット」の連動を実現した。グリッドサービスがより便利で効率が良くなるようにし、受動的処理を能動的なサービスに変えたことで、社区党委員会組織や居民委員会の威信は高まった。「掌上社区」ガバナンスモデルは社区党支部リーダー、居民委員会主導者、協同する社区住民、区内駐在の企業・事業団体、不動産会社や社会組織によって、ウィーチャットグループと公式アカウントを使い、人工知能、ビッグデータ等の技術を活用して、オンラインによる社区ガバナンスの総合プラットフォームを作り上げた。人々はいつでもどこでもウィーチャットを開けば、社区のあらゆる事業に参加し、各種情報を問い合わせることができる［江蘇省政府研究室調研組 2018］。「掌上社区」は、社区ガバナンスの補助、行政サービスの拡張、住民自治のプラットフォーム、党組織の建設推進（党建引領）の場として位置づけられる。「掌上社区」の権威性、双方向性、実用性や趣味性を発揮し、運営のメカニズム、標準化管理をさらに改良し、オンラインガバナンス構造の形成を支援することに重点を置いた。

㈡　AI化の段階――「掌上雲社区」

二〇一八年二月、「掌上社区」の理念と役割に基づき、運用上の問題を改良し、さらにグレードアップを進めて、「掌上雲社区」をリリースした。「掌上雲社区」はクラウドコンピューティング、ビッグデータ分析、人工知能、ブロックチェーンなどの新しい技術を導入し、情報交流、作業指示の流れ、「リモート」（不見面）サービス、AIによるサービス、協議審議、グループ管理、党組織の建設推

進、ビッグデータ分析の八つの要素を増設し、管理とサービスの機能を改善した。同時に「掌上雲社区」のアニメキャラクター「小棲」というAIソーシャルワーカーを開発し、「ひとつのグリッドにひとつのウィーチャットグループ」の基準に従って、ウィーチャットグループ内に「小棲」AIロボットを参入し、二四時間住民のためにサービスを提供した。オンラインで五二〇〇件に「小棲」AIが返事をし、五九〇件を超える「非対面の審査・承認」事項へのアクセスを実現した［金台資訊 2020］。技術的手段でグループ管理者の業務的圧力を軽減し、住民により正確で効果的なサービスを提供することができるようになった。「小棲」開発の裏には、掌上雲社区プラットフォーム及び全社区従事者一四〇〇人余り、グリッド構成員一〇〇〇人余りの努力が費やされている。双方向型オンラインを通して、平均毎日一万件余り、月に三五万件余りを超える情報が生産される。グループ内で「小棲」を通して住民に応対したサービスは八〇〇〇回を超え、グループリーダーが応対したサービスは一〇万回を超える。社区が行なう業務がより民意に近づき、より多くの住民の支持と賛同を得、効果的な参加、協調的共同ガバナンスのプラットフォームを作り出した。住民へのサービスを改良すると同時に、その裏では環境衛生、医療教育など十種類の社会情勢や世論の「データ集」を自動生成してビッグデータ分析を進め、掌上雲社区におけるウィーチャットグループの毎月の情報量を基にスタッフが詳しく調査し、毎月『棲霞区民生民情動態簡報』を作成している。ビッグデータによって「不平不満」の中から住民の意見を浮き彫りにすることで、政府の施策と社区ガバナンスにより正確な方向性をもたらしている［王聡・郜健・張永光 2020］。当面の課題は、クローズドループ・マーケティングの実現と、効果的に社区サービスの効果を高めること、住民の満足感を高めることである。

「掌上雲社区」は、社区党組織リーダー、協同する居民委員会、社区住民、区内駐在の企業・事業団体、不動産会社と社会組織などが多元的に主体となり、ウィーチャットグループ、ウィーチャット公式アカウント、ミニプログラムなどのインターネットをプラットフォームとして、ブロックチェーン、人工知能、ビッグデータ、クラウドコンピューティングなどの現代情報技術を活用している。オンラインで社区事業を管理し、オフラインのグリッドと融合して自治能力を高め、コミュニティの新型基層ガバナンスモデルを共同で作り上げた。「掌上雲社区」は二〇二〇年六月までに、ウィーチャットグループを一〇四五グループ作り、九街道一二〇社区全てを網羅した。一九万一〇〇〇人を超える人がグループに入会しており、戸籍人口の三〇％以上を占める。常住戸籍人口に照らして計算すると、

平均一家庭に一名はグループのメンバーであり、グループの主力メンバーの育成は二〇％以上に達している。

㈢　スマート化の段階――「掌上雲家園」

社会ガバナンスシステムとガバナンス力を現代的にモデルチェンジし、アップグレードしていくため、棲霞区は「一体両翼」の構図を打ち出した。即ち「掌上雲社区」を主体とし、「社区協商」（コミュニティ協議）と「社区営造」（まちづくり）を両翼として共同で推進するものである。「美好社区共同営造」（美しい社区共同建設）の「社区微幸福行動」（社区ちょっと幸せ活動）を支援し、オンライン・オフライン双方向で参加の品質向上と発展を持続する。「掌上社区学院」「掌上党建」「掌上政務」「掌上物業」などを次々と生み出し、政府とコミュニティ間、政府と企業間、住民間での自動的な連結を進め、革新を繰り返した［閔学勤・陳丹引 2019］。「掌上雲社区学院」はクラウド科学技術を供給する側の手段として、社区の活性化を中心に、住民自治の水準を高めることを目的とする。伝統的な管理の難題を克服する足がかりとして、システム研究開発の育成コースを開設し、多元的な学習プラットフォームであるクラウド学院を立ち上げた。学習者の社区ガバナンス問題を処理する能力の向上と、現代の情報時代にオンラインのツールと人々の交流を利用して問題を処理する能力を全面強化し、現代的意義を備えた社区従事者の集団を作り出す［棲霞区民政局 2020］。二〇二〇年、棲霞区政府は「垂直方向の権威付与、水平方向の統合、デジタルの拡張、クラウドの統合」を通して、基層ガバナンスの業務と審査承認サービスの執行力を組み合わせ、また基層の負担減少と民生サービスの水準向上を組み合わせることで、基層ガバナンスの社会化、法治化、ＡＩ化、専業化の水準を向上させようとした［仇惠棟 2020］。「掌上雲社区」プラットフォームから「掌上雲家園」（てのひらクラウドホームランド）に拡張し、各種ガバナンスの要素を集め、三六〇度全方向型ガバナンスを展開した。オンラインでリアルタイムにビッグデータの分析を重ね、住民の意見・要望を追跡し、オンラインでリアルタイムに住民を動員し、リアルタイムで承認し、指揮する。「ラストワンマイル」を埋め、民間力の自発的な成長を引き出し、活力とぬくもりのあるコミュニティを建設しようとしている。

三　研究による気づき

南京市棲霞区の基層ガバナンス革新の試みは、党委員会政府の改革に対する熱意と、基層組織の住民サービスへの柔軟な姿勢と、住民の参加による情報集積を反映したものであり、ぬくもりのある人間的なデータ管理である。一方

向から双方向の行政サービスへの転換、一部門から多部門共同のサービスプラットフォームへの転換、静的データ処理から動的データ処理への転換、または単純な技術作業から「技術プラスサービスプラットフォーム」の運営モデルへの転換をあらわしている。

㈠　党委員会政府は強力に改革と革新を推進

棲霞区での基層ガバナンスの改革では、党委員会政府の改革への熱意、党組織や社区組織の柔軟な姿勢、人々の受容性、専門家の指導のいずれも欠かすことができない。また棲霞区の社区従事者には大学院卒の役人もおり、社区ガバナンスの活躍は見逃せない［閔学勤・賀海蓉 2017］。棲霞区政府や社区従事者は業務の考え方を転換し、新しい技術によるガバナンスの変革を積極的に行なった。

棲霞区の基層ガバナンスの革新は、区全体の核心的なプロジェクトである。二〇一一年から仙林街道のグリッド管理を推進して以来、社区居民委員会スタッフや楼棟長はそれぞれのグリッドに入って社区ガバナンスに参加するほか、政府機関の公務員はみな担当の三級グリッドに動員された。基層政府は極めて効率的、迅速に九つの街道から二六のサンプル社区のリストを確定した。「掌上社区」によるガバナンスは試行と同時に、見直しと調整をしながら事業を開始した。政府の意向に従い二六の社区は、プロジェクトグループの専門家によるトレーニングを経て、インターネットの知識を身につけ、「掌上社区」の構築から運用までの新しい全工程をスタートした［閔学勤・賀海蓉 2017］。

棲霞区党委員会政府は多くの政策実行にトップダウン設計を進め、多機関による共同参加を推進した。はじめは区委員会研究室が組織の調整と全体的な推進を担当したが、現在は民政部が主導となって主にプラットフォームの構造と事業の推進を担当している。区政務サービス事務室は「掌上雲社区」の技術研究を強化し、安全で安定した運行を保障するため、運行データを全面的に収集して定期的に分析と検討・判断をし、社会ガバナンス業務を分析決定する科学的根拠を党委員会政府に提供する。区の住宅・都市農村建設局は、住宅地の不動産管理会社が「掌上雲社区」建設運動に参加するよう組織し、不動産サービスの力を調整して、共同参加によって社区ガバナンスの矛盾問題を解決していく。「掌上雲社区」の不動産処理データは全社区の不動産等級を評定する重要な参考根拠になっている。各街道は「掌上雲社区」ガバナンスモデルの実施業務を具体化し、より多くの社区を動員して情報化方式を活用し、社区住民の交流を強化し、オンラインとオフラインを統合させた相互作用を実現した。

党委員会政府推進の下、「掌上雲社区」の進行状況は街

道の社会建設業務の月度、年度の査定に取り入れられる。査定は区民政局が組織をとりまとめて実施し、関連部門が連携する。南京大学社会学院は第三者評価機関として、各社区の「掌上雲社区」の構造や運行状況を客観的、公正に評価し、基層の幹部と社区従事者を激励する根拠となる評価報告を作成する。

(二) 技術ガバナンスがビッグデータによる基層ガバナンスモデルを創出

インターネット社会の到来と情報社会の発展に伴い、基層ガバナンスのデジタル化への流れが急がれた［鄞益奮 2007］。「掌上雲社区」はこの流れに応じて作り出された重要な革新の実践である。「掌上雲社区」はインターネットとビッグデータを取り入れることで、社区ガバナンスと協議による管理、インターネットガバナンスを一体化した［閔学勤・賀海蓉 2017］。「双方向の相互作用、デュアルネットワークによる連動」は、オンラインとオフライン、インターネットとグリッドを結合させた点で優れており、基層政府と住民と市場が日常的に交流できる空間を構築した。情報を共有し、複数で応対し、相互に監督し、共に考え共に治める運行メカニズムを実行して、基層のガバナンスを活性化した。

「掌上雲社区」は専用に設計したアプリではなく、ウィーチャットグループ、ウィーチャット公式アカウント、ミニプログラムなどのモバイルインターネットのプラットフォームをベースとする。「キーからキー（のリモート）」で「顔から顔（の対面）」を実現したことにより、基層政府は社会のさまざまな分野とオンラインで「共存」する。大衆はタイムリーなコミュニケーション、公共事業のオンラインによる協議、自分たちの意見が聞き入れられることを求めている。社会資本理論の観点から見ると、社会ガバナンスモデルは、多様化、多様な流れ、効率のよさ、規範化した表現、参加、協調と協力の構造を打ち立てて、公共利益を最大に促進すべきである［王強 2007］。ウィーチャットグループには業務グループ、サービスグループだけでなく、交友グループ、娯楽グループ、参加グループもあり、ウィーチャットグループが社区の最も重要な社会資本となっている。ウィーチャットグループは住民間の互いの時間的コスト、情報コスト、交流コストを低下させ、社区の雰囲気を和ませ、オンラインによる参加というルートを切り拓いた。多様な主体のつながりを実現し、住民自治組織の能力を向上させ、まちづくりを助けると同時に、住民間の情報交流と資源交換の流れを広げてスムーズにした。こうした流れのなかで自己のニーズを実現した。

ウィーチャットプラットフォームでの「掌上雲社区」の社会ガバナンスでは、住民の嘆願が提出されると、社区従

事者がそれに応答し、関連の行政機関が修正措置などを取る。主に突発事件、公共事業、日常的業務の三つの面に関する内容の改善と、公共ガバナンスの推進を展開している。そのなかでも社区で発生する水道管破裂や下水管の詰まり、児童失踪などといった突発事故は、社区従事者の能力が最も試される。公共事業には、速報、政策情報、サービス情報の公開（例えば断水停電やカルチャー教室の情報など）、事業の協議推進（例えば集合住宅の門の故障やエレベーターの増設など）が含まれる。日常的業務には、社区居民委員会スタッフあるいは社区従事者による案内の発信、重要な情報の転載や社区の写真撮影など、ウィーチャットグループを管理する業務があり、定期的に特定の情報を発表してグループの活動を維持している社区もある。「掌上雲社区」は充分なデータ化を進めることによって社会ガバナンスのプロセスを可視化し、参加や評価をしやすくした。また、住民の参加への満足度を向上させた。

㈢　社区微幸福行動事業はオンラインの社区ガバナンスの意義を深化

二〇一八年三月末までに「掌上雲社区」の参加規模は、瞬く間に八万人の年度目標に近づき、ネット上でそれなりの規模となり、客観的にその意義を深める条件が整った。棲霞区政府はその流れに乗って「美好社区共同営造」による社区微幸福行動を推進し、掌上雲社区というインターネットガバナンスのプラットフォームをよりどころに、グリッド化の基礎的なガバナンスモデルを統合させて、オフラインのグリッドと融合させたコミュニティ協議とまちづくりを広く展開した。

社区微幸福行動事業は「美好社区共同営造」をテーマに、社区の修繕、社区の環境美化、公共空間の機能改善、社区サービスのアップなど、住民の「差し迫った」問題事項への対応と解決、また科学技術ＡＩを社区成果に応用する試みや、社会ガバナンスの革新を促進する効果のある事項にも力を入れた。選ばれた事業について、該当する区民政局は一定の資金を援助し、関連部門でも「社区学院」と「小棲・公益行」事業をセットにして、関連スタッフの育成指導を提供した。「小棲」ＡＩロボットをウィーチャットグループに参入させて、ＡＩサービスシステム、技術アップなどの手段を活用し、業務の持続的安定的推進を保障した。掌上雲社区プラットフォームを作り、社区微幸福行動事業を推進して、棲霞区の基層社区ガバナンスをオンラインで発信しオフラインで実行した。民衆の声を聞き人々の知恵を集めて民心を結集し、「共に築き共に治め共に享受する」社区ガバナンスの構図づくりに力を入れた［棲霞区人民政府 2019］。

社区微幸福行動事業は届出から評価と成果公開まで、特

に「双方向のサービス」を強調して、「掌上雲社区」を充実させた。事業の届出には事前に社区による双方向の協議を十分に開かねばならないが、二〇一九年に「社区学院」の推進によって、事業公募前の届出訓練を一連の流れに増設した。事業管理、財務管理、組織管理などについてのネット指導を含め、積極的に「社区営造学院」の実地訓練に参加させた。「社区学院」は小棲とセットでポイント制度を実施し、学習と管理の激励モデルとした。事業の責任者は学習状況と事業の完成に携わり、「掌上雲社区」リーダーは学習状況と年度評価の評定に携わる。民政局は審査・記録し、最終的に確定後、ウィーチャットグループで公示する。「掌上雲社区」では事業実施の鍵となる推進計画と問題についてオンライン協議を進め、同時に社区のとりまとめにより、組織項目に関する実施主体メンバー、党員代表、組織リーダー、熱心な住民などがオンライン協議と足並みをそろえてオフラインで協議を開く。オンラインとオフラインでの協議の過程と結果はすべて記録保存される。実施主体はその間随時活動情報や写真を収集編集し、「掌上雲社区」のウィーチャットグループでリアルタイムに報告しなければならない。また段階的に重点活動の情報は、民政局に報告するか、業務交流グループに発信する。事業の総括段階で、事業成果について、「掌上雲社区」で満足度の測定をする。評価にあたって、「掌上雲社区」はオンライン追跡評価と社区定点測定をし、即時に社区微幸福行動事業の展開状況と実施効果を把握する。オンライン情報のデータ分析を通して、問題の把握を促し、育成を補佐し、より多くの社区住民が満足を得られるように力を注いでいる。

四　さらなる検討

南京市棲霞区政府は二〇一六年の年末より「掌上雲社区」ガバナンスモデルを実施し始めて以降、その基層ガバナンスの面では大きな成果があり、政府のガバナンス理念の転換をあらわしている。しかし、伝統とは異なるこのようなオンラインのガバナンスモデルは、基層ガバナンスに新たな挑戦をもたらした。「インターネットプラス」とビッグデータ技術の発展は、民衆の日常的な訴えに直面する、より多くの機会を基層にもたらした。同時に、オンライン上の社会集団の社会生活の変遷がもたらした挑戦――たとえば大多数の沈黙、グループの対極化、グループ内でのことばによる衝突、無関係な広告、威圧的なことばやゴミ情報など――に対応する、より生きたシステムが必要となった。

(一) 「クラウド社区」は「社区」を代替し得るのか、あるいはカバーし得るのか

インターネット時代のネット社区はかつて疑似社区と呼ばれ、現実の社区と区別されていた。オフラインの顔と顔を合わせる現実主義的な社区と、オンラインのつかみどころのない理想主義的な社区との区別をあらわしている。しかし、モバイルインターネットのツール性、相互作用性がますます明らかになると、インターネット社区は疑似社区に取って代わり、生活スタイルあるいは生活形態のひとつとなって、一種のモバイル社区として表現され、現実の実体のある社区との間の密接度はますます強まり、さらに直接的に個人の経済、文化や社会生活にまで影響している。インターネット社区が現実主義に向かって方向を転換したとみられる［閔学勤・李少茜 2017］。さらに中青年層の住民はインターネットで手続きを完了し、社区情報などのサービスを受ける傾向があり、インターネット社区の構築と活用は切実である。棲霞区の基層社区ガバナンスはまさにこれらの要求に合致しており、オフラインの実体のある社区がインターネットにまで拡張している。

検討すべきは、「クラウド社区」は「社区」を代替し得るのか、あるいはカバーし得るのかということである。クラウド社区と社区の関係は代替可能なものなのか、それとも補足的なものなのか。「クラウド社区」が社区の新形式のひとつであることは明らかである。もし補足的なものだとしたら、クラウド社区が社区を補足し拡大するものとなるのか、それとも逆にオフラインの社区が「掌上雲社区」を補足しながら続いていくのか。オンラインの社会ガバナンスは、本当にオフラインの社区ガバナンスに比べて、多様な主体が参加し、透明性があり、対応力があり、効果的な、より「良い統治」にあてはまるのか。

「掌上雲社区」は現在、棲霞区常住人口一九万人の参加を受け入れているが、まだ五一万人強の人口が参加していない。参加していないのは主に高齢層と幼年層といった人口の両端にいる人たちである。社区の高齢者や青少年児童、またＡＩ技術を利用する条件にない社区住民は、情報格差のせいで除外される可能性がある［王萍・劉詩夢 2017］。社区ガバナンスについて言えば、このようなエリートを集団の要とする「クラウド社区」のガバナンスには「ビッグデータの傲慢」が存在していないだろうか。慎重に扱うべき問題である。

中青年層の参加受入れは社区ガバナンスにとって非常に重要な課題ではあるが、高齢者やこどものためのサービスは常に社区の主要な対象である。しかも生命周期理論や家構造機能理論の点から見ても、高齢者やこどものためのサービスは中青年層の社区サービスのニーズにいくらか含

まれている。もし社区業務が高齢者とこどもという両端の集団によいサービスができれば、中青年層や家庭のためにも後顧の憂いを解決し、同時に中青年層の高齢化に伴う社区生活での問題や議題を解決することができる。

このほかにもまだ多くの中青年層の住民がこのプラットフォームを利用する気がなく参加していない。そこには住民間の疏遠や排斥などの複雑な理由がある。些細な用事で「政府を探す」以外には、実際に誰によって、どのように管理されているのかなどは関心もなければ気にもしない人が多い。まだ参加していない住民にとっては、技術やその利点は「無」に等しい。電話窓口など他のルートで公共サービスを求め、ウィーチャットの会話に参加する時間も精力もないような住民は、特に仕事を持つ中青年層である。こうした状況はすぐに変えるのは難しく、「掌上雲社区」がより発展する際のボトルネックとなっている［韓志明・雷葉飛 2020］。

㈡ ウィーチャットグループによる社区ガバナンスの効果は有限か否か

棲霞区の基層社区ガバナンスのオンラインによる効果は明らかであるが、「掌上雲社区」が網羅する範囲の拡大はやはり大きな困難に直面しており、広報と社区住民動員の効果は実際には理想的ではない。

ウィーチャットグループの活動状況から見て、社区従事者は精力の多くをウィーチャットグループの管理に費やさざるを得ない。現在入会している三〇％を占める住民を何とかしてとどめておくために、天気情報や定期的にサークルを開催するなどして「掌上雲社区」の活動を維持している。ウィーチャットグループのメッセージ交換の効率は、ほかの一般的なウィーチャットグループのおしゃべりと似たようなものである。ウィーチャットの情報はほとんどが片言だけの不完全な情報で、「いいね」を呼びかける情報や、社区従事者の日常管理の情報ばかりで、有用な情報の数は実際には一〇％程度に過ぎない［韓志明・雷葉飛 2020］。「インターネットプラス」の大部分は、社区サービスのプラットフォーム機能としては情報のとりまとめと発信だけでしかなく、社区サービスの需要と供給の結びつきを本当に実現してはいない［康之国 2019］。ウィーチャットグループの中心的な機能は交流であって情報発信ではない。グリッドスタッフが発信する重要な情報はグループメンバーの会話の中に簡単に埋もれてしまい、効果的な作用を発揮するのは難しい［李佳婧 2020］。棲霞区芝嘉花園社区を例にすると、社区のウィーチャットグループ内で発信した情報の四八％は不動産関係、三〇％は社区発表の類、一二％は問い合わせ関係、一〇％は相互共有の類である。

ウィーチャットグループ内の情報選別のプロセスから見

ると、オンラインによる交流形式はイラスト、音声、動画などの形式を含め、参加者の文字表現能力と文字駆使能力に依存する。住民の感情、表現方法に対する理解、表現状態、表現ニュアンスなどの細かい情報を瞬時に適切に表現する術はなく、住民の魅力的な表現はある程度制限され曲解される。これはある意味「情報誤差」を構成することにもなり、住民の参加や表現を制約することになってしまっている。また、グループ内の住民同士の利益による紛争や、価値の衝突が起きたとき、他人の過激なことばでグループ脱退にまで至り、逆に社区内の分裂と矛盾が公にされ、拡大されてしまう［韓志明・雷葉飛 2020］。このように、「掌上雲社区」プラットフォームは住民の共同体意識の形成に直接的に影響している。

情報の観点からみると、メッセージの交換方法とその効率は技術ガバナンスの核心である。技術を利用することにより情報量は大幅に増加し、ビッグデータを手段にした情報処理が必要となる［韓志明・雷葉飛 2020］。「掌上雲社区」は毎月三〇万件以上の有効な情報交換を生み出しており、これら情報をデータに転化し、データをビッグデータに転化する、大規模な情報処理能力を開発する必要がある。それでこそ社区ガバナンスを最適化することができる。

㈢ 官僚制管理を強化拡大すると住民自治は弱体化するのか

管理サービスと民衆自治は基層の社会ガバナンスにおける二大目標である。社区ガバナンスのサービスは、即ちこの二大目標をめぐって進められる、行政権と自治権の「切り離し」と、政治と社会の分離を基礎とした政治社会の相互作用であり協調であり共治である［王木森 2017］。技術は官僚体系の中に入り込んでいくと、官僚制に統制され自由を奪われる［韓志明・雷葉飛 2020］。果たして政府の官僚制管理はウィーチャットグループのコミュニケーションプラットフォームによってガバナンス論理に転換されるのか、それとも官僚制管理の流れが強化、拡大、延長されていくのか。住民はウィーチャットグループを情報伝達のトップダウン構造とみなすのか、それとも社区自治に参加する手段とみなすのか。

棲霞区の基層社区ガバナンスは政府官僚制と密着しているが、よりスムーズでスピーディに情報を異なる階層に流しているだけで、決して政府官僚制の構造を改変してはおらず、政府官僚制の運用論理は従来のままである［韓志明・雷葉飛 2020］。「掌上雲社区」は非正式なコミュニケーションのウィーチャットプラットフォームを活用して、交流と相互作用の正式なプラットフォームを作り出した。政

府は新しい時代に合わせて民意を受け取るオンラインの方法を開拓し、住民も喜んでこの方法を活用した。まさに政府の行政機関の窓口がウィーチャットグループで開放され、より住民に接近したかのようである。区委員会や区政府のリーダーはグループに「潜り」こんで区民の意見を理解する。グループリーダーは意識的におしらせを発信し、インターネット文学を転載したり写真やジョークなどを発信したりして社区住民の参加を引き寄せ、請願申し立てをするような問題や要望を持った住民を個人チャットに引き込むなど、実際にはオフラインの社区業務の管理論理と同じである。

オンライン上の住民の数は膨大のように見えるが、オフラインの社区に参加するのが主に社区住民の中の積極的な人か中心的人物であるのと同様に、一部の「エリート」住民あるいは「表現できる」住民に集中している。大半は意見を持ち、生活品質を追求する中青年サラリーマンである[閔学勤・王友俊 2017]。異なるのは、ウィーチャットグループ内の関係やつながりだけに頼るとなると、エリート住民の社区での動員力、号令力、影響力にはやはり限界がある点であり、社区共同体意識の構築の道は険しい。

㈣ 社区は負担減少で効果を増したのか 効果を増したが負担も増えたのか

南京市民政局は一貫して社区の負担減少・効果増大を推進し、かなり良い成果を得ている。「掌上雲社区」の管理の成果は負担が減少して効果が増大したのか、それとも負担も増大し効果も増大したのか。増加した成果は行政機能の管理による成果か、それとも社区住民の自治による成果か。

技術ガバナンスの時代であっても、社区従事者は社区住民のさまざまな表現ルートや交流技術を確実に掌握すべきで、また充分に技術を利用して社区自治を展開していく能力を向上していかねばならない。棲霞区の基層社区ガバナンスは社区の隅々にまで拡大し、社区の業務に新しいメディア技術を応用してうまく連結させようとする状態にあり、これは住民との連携に基づいた社区従事者の職責としてあるべき姿である。しかし、「掌上雲社区」の技術プラットフォームの開発に伴い、すでにある程度は負担が減少していた「業務」や「任務」がまた社区のレベルに集中してあらわれた。政府は情報データプラットフォームの建設、「小棲」ロボットの開発及びビッグデータの分析を展開するのに多くの資源を投入しているが、社区従事者によるウィーチャットグループの運営維持は社区自治の需要ではなく、多くが掌上雲社区の技術プラットフォームの需要

による。「掌上雲社区」は行政機能の流れを再構築し、ウィーチャットグループ内のガバナンスの内容が空洞化するのを防止している。しかし同時に、本来は行政が直接住民にサービスを提供するべきことが、ウィーチャットグループを通して社区従事者の目前に突きつけられる。たとえロボット「小棲」の助力があっても、社区や街道、区の行政機関を混同してしまうのは避けられない。社区はその本質を離れ、最終的な政府窓口サービスとして、大量の行政的な任務を実際に担うことになり、これら行政任務の中には技術ガバナンスを手段とする社区情報化も含まれている［陳福平・李栄誉 2019］。以上のように、社区は本来の住民自治プラットフォームとしての立場から外れてしまっており、基層従事者のための「インターネットによる負担減少」は、目下解決を待たれる問題の一つである［郭慧珍・毛甬津 2020］。

社区従事者がウィーチャットグループ内で対応、解決する問題からみると、多くの問題は確実に住民が急を要するものであるが、必ずしも社区がしなければいけないもの、あるいは解決できるものではない。たとえば最も集中し且つ現在最もガバナンスの成果があらわれているのは不動産管理の問題などである。各小区の状況は複雑なため、棲霞区政府は一貫して「不動産管理のバックアップ」、即ち不動産管理がない、あるいは状態が悪い小区に不動産管理の援助を基本施政方針の一つにすることで、基層政府の末端である社区委員会は過半数以上の名声を保持しているとみられる［閔学勤・賀海蓉 2017］。実際にあるウィーチャットグループで出された不動産管理の問題は、不動産管理会社と業主委員会、及び業主間の市場協議を通して解決せねばならなかった。社区の立場は協調の機能であるが、棲霞区政府が提出した不動産管理バックアップ政策や掌上雲社区の建設によって、社区従事者の精力の多くが不動産管理に置かれており、不動産管理会社と住民の間の矛盾の解決、二者間の協議促進ではなくなっている。グループ内の問題の四〇％にのぼる不動産管理に関する問い合わせや質問に対応するため、リーダーをする社区と同一のウィーチャットグループで不動産管理も一緒に扱うようにし、住民の不動産管理の問題にすぐ応答しやすくしており、グループ内の住民に社区グループの価値を感じさせ、［閔学勤 2017b］また社区やその背後の基層政府に対する信頼感を増加させている。しかし、社区や背後の基層政府の働きや不動産管理会社の管理運営能力にとってみれば、これは決して有益なことではなく、グループの住民に社区の役割と立場を混同させやすくしてしまっている。

五　研究のヒント

棲霞区の基層社区ガバナンスモデルは、棲霞区党委員会政府の持続的推進のもと、良い効果をもたらしたが、同時に、新しいガバナンス理念を強固にするため、基層従事者の職業的素養と業務能力に対する要求や、より進んだ安全な技術保障への要求など、さらに高い要求が出されることにもなった。棲霞区の基層社区ガバナンス革新の実践を推進していく考え方をもとに、以下三つのテーマについて研究のヒントが得られた。

㈠　「オフラインによる社区のまちづくり」と「オンラインによる社区ガバナンス」

棲霞区の基層社区ガバナンスは伝統的な方法とウィーチャットプラットフォームの方法を結合させることで、社区ガバナンスを迅速かつ効果的に変化させた［侯莉娜 2015］。一般的に、全社区の掌上雲社区での業務内容は、すでに社区の大部分の業務内容をカバーしている。主にタスクの処理（三～四件／日）、グループへの通知（二～三件／日）、非対面の審査・承認（二件／月）、オンラインによる協議（一回／月）、オンラインによる党組織の建設（二回／月）、ＡＩによる回答（二件／日）、オンラインによる活動（二～四回／月）、オンラインとオフラインの統合（四～五回／月）などがある。掌上雲社区は第一に社区住民のニーズをつかむのに有利であり、社区の日常的業務の決定に有効なデータを提供するほか、基層社会ガバナンスの情報採集、民意の収集、問題や隠れた危険を探し出し、矛盾や紛争を取り除き、民生サービスなどの機能も担っており、掌上雲社区の利点はオフラインでのまちづくりの補助、強化、延長にあると社区従事者たちは強く感じているようだ。たとえば、グループ通知はオフライン通知で網羅できない不足分を補うことができ、オンライン協議やオンラインでの活動は住民と社区の交流を強化するのを助け、オンラインとオフラインの統合がより多くの住民のオフラインでの参加を引き付け、社区活動の知名度や関心度を引き上げることができる。

情報技術の発展は時空による制限を超越し、住民が参加するために自由でより多様化した選択の空間を提供するが、インターネットでの参加の有限性と相互の混乱を無視することもできない［唐鳴・李夢蘭 2019］。オンラインの社会ガバナンスのＡＩ化は、オフラインのまちづくりと切り離すことはできず、両者が緊密に結びつくことではじめてガバナンスの最大の効果が発揮される［唐有財・張燕・于健寧 2019］。オンライン社区ガバナンスの基礎はやはりオフラインの社区づくりにある。オフラインからオンライ

ンへの社区ガバナンスモデルは、社会ガバナンス革新の重大なきっかけを提供するだろう。但し、それには前提として、オフラインの社区づくり事業が確実なものでなければならない［梁肖月・羅家德 2019; 柳森 2018］。社会ガバナンスは根本的に人心に対する管理であり、住民との交流が必須であり、社会ガバナンスに関わる主体を有機的につなぐことができなければならない。

㈡ 「人間本位」と「技術本位」

技術は人間の能力向上のために用いられる。効果的な技術ガバナンスは既存の社区社会資本の基礎において「人間本位」のガバナンス方式であるべきである［何暁斌・李政毅・盧春天 2020］。棲霞区の基層社区ガバナンスは人を中心に進めるべきであり、社区ガバナンスのプロセスにおいて、住民との心理的つながりに注意し、住民に尊重や平等を感じてもらえるよう、満足感を自然に高め続けるものでなければならない。

モバイルインターネット技術は情報を相互に接続でき、サービス効果と効率の向上を助けるが、住民参加の問題を解決することはできない。やはり社区従事者は社会ガバナンスのシステムを利用したオープンスペース会議や、参加型調査、ブレインストーミング、円卓会議、起業支援、公共福祉事業計画などの技術面で、社区住民の参加を高め、住民自治力を育成していく必要がある。「オンライン＋オフライン」の「上下一体」の技術を統合させてこそ、情報のつながりを基に、人と人とのつながりや人とサービスとのつながりを実現することができる。「掌上雲社区」のガバナンスモデルでは、社区居民委員会は質の良い社区ウィーチャットグループの運営を持続することができ、オンライン協議の社区公共事業に広く住民の参加を引き寄せることができているが、それには社区居民委員会に一定のネームバリューがあることが前提となる［閔学勤・王友俊 2017］。このネームバリューを得るには住民の賛同が必要であり、技術に依るものではない。

オンラインビッグデータガバナンスで大量に入手した情報データは、即時処理と有効利用が必要である。データをビッグデータに変換することで、マクロな全体的状況とミクロな個別状況を分析し、データについて技術面と関連性の面で分析をすることで、そこから価値ある情報を取り出し、都市ガバナンスの政策決定に用いる。それだけでなく、さらに個体化、多様的なサービスに用いる［趙汝周・岳鳳蘭 2015］ことで、人々の要求を満足させ、生活体験を向上させることができる［黄仕玉 2019］。ビッグデータプラットフォームはユーザーがプラットフォームを完成させる作業としての手段であるだけでなく、プラットフォームがユーザーに奉仕する構造であるべきである。住民の情

報を収集し、政府の使用に提供されるのがデータシステムである。そしてビッグデータシステムは、情報の入手、検索、分析、共有、利用を含め、政府がビッグデータの分析によって、住民にサービスを提供するのに使用するプロセスである。「技術本位」のビッグデータは住民のニーズから生まれたのではなく、そこに住民の満足感はあらわれない［戴金梁・丁炯炯・劉尚宝 2018］。「人間本位」のビッグデータでなければ、情報データを開放して共有し、リアルタイムで効率的に［田勝松・徐飈・徐雲舟・羅学江・余紅 2016］、相互接続し、共に建設し共有するなど、社区情報化建設の効果を最大に発揮し［陳栄卓・劉亜楠 2019］、社区の人間味ある管理を作り出し住民生活の幸福指数を高めることはできない［劉暁川 2016］。

スマート社区はこのような理念をもとに、技術手段とガバナンス理念、ガバナンスの主体、ガバナンスのメカニズム、ガバナンスモデルの有機的結合をより際立たせ、社区に対する公共価値のアイデンティティ回帰をさらに強調させることで、技術力を支持した、理念としての「スマートガバナンス」を新たな段階にまで推進する。スマートを手段にして、人道的ケアに富んだ社区サービスを実現し、人間味があり、互いに助け合う、正確なスマートガバナンスを推進する［姜暁萍・張璇 2017; 梁欣 2019］。技術的な社会属性と価値属性を強化し、「社会を主として、技術を用いる」実践的な論理を堅持して、「人民本位」の方向に向かって邁進するよう社区ガバナンスを牽引していく［徐選国・呉佳峻 2020］。

㈢ 「社区ガバナンス」と「社区に対するガバナンス」

棲霞区の基層社区ガバナンスにおいて、区内駐在の企業・事業団体、社区社会組織、第三者を担う南京大学社会学院及び住民一人ひとりはみな重要な作用を発揮しており、行政の効率向上に役立っている。社区従事者及び社区社会組織などの積極的な牽引により、住民の広い参加、提案、コンセンサンスが呼びかけられ、社区の骨幹となる住民が育成され、社区の自治組織能力が高められた［鄞益奮 2007］。棲霞区の基層社区ガバナンスは政府統治理念の転換をあらわしているが、政府の主導的作用や地位も避けがたく、いかに真の多元的主体参加の社会ガバナンスを作ることができたとしても、依然として注意と警戒が必要である。

「掌上雲社区」は、社区ガバナンスと協議ガバナンスとインターネットガバナンスが一体となり、基層政府の最末端である社区居民委員会が社会的弱者へのサービスから、社区の各階層へと向かう機会を持つまでを示していると考える学者もいる。もし社区の対応力、サービス力や多方面

と協力する能力が十分であれば、短時間でガバナンス構造を激変させることができ、社区居民委員会の主導で、住民、不動産管理、業主委員会、区内駐在の企業・事業団体、社区組織が共同参加するオンライン基層ガバナンスの場に容易に変化させることができる［鄞益奮 2007］。しかし、社区居民委員会が基層政府の最末端として、オンライン基層ガバナンスを主導するとしたら、社区居民委員会の自治としての本質に違背することにはならないのか。

「社区ガバナンス」と「社区に対するガバナンス」の区別は、ガバナンスのプロセスにおいて、社区が主体か客体かにある。社区が客体となるガバナンスは、本質的には「サービスが人を探す」管理形態であり、社区が主体となるガバナンスは、「人がサービスを探す」ガバナンス形態である。ガバナンスのプロセスの基礎はコントロールではなく協調である。ガバナンスは正式な制度ではなく、持続的な相互作用である。これによって社区ガバナンスは社区の主体的地位を体現すべきである。しかし社区ガバナンスに従事する者たちは、いまだその意味を深く理解していない。現在さまざまな社区ガバナンスの実践が体現しているのは、概念上の「脱行政」であり、実践の執行上では高度に行政化されており、政府の指導が牽引よりも多く、「過度の行政整合と社区自治の能力不足」の改革リスクを避ける必要がある。政府は社区の業務から「退」くべきであり、行政化を脱し、社区の負担を減らし、社区が持つ「精力、能力、財力」を社区ガバナンスに投入し、さらに行政事務と社区自治事務を整理し、政府委托事務と社区自治事務の境界を明瞭にし、政府行政管理と基層大衆自治が効果的に連携するよう進めるべきである。

都市基層社区は主動的な管理とサービスの水平方向の協力プラットフォームであり、受動的な管理の垂直方向の「末端」ではない。垂直管理体制は容易に社区を異なるブロックに分割し、社区は主体的な地位をあらわせなくなり、受動的な管理を受ける。水平協力の構造は社区を真の意味で開発プラットフォームに作り上げ、社区の容量を拡大し、社区により大きな権利を付与する。よりよい社区共同体意識の構築を促し、社区の独立主体的地位を体現し、社区に主動的な機能を発揮させることができる。現在、社区はやはり縦割り垂直方向の組織であると認識されており、社区の「水平方向のインターネットプラットフォーム」に対する役割認識は非常に欠如している。これも社区の共同体意識不足を引き起こしており、社区ガバナンスの社区事業は多くの党及び政府の行政機関が関わるため、日に日に断片的なガバナンス状態に陥っている。トップレベルデザインはまだ達成できておらず、社区を水平方向のインターネットプラットフォームとする基礎設計が十分に規範制度化されていないことが、共同ガバナンス実現に直接

影響している。

参考文献

陳福平・李栄誉　2019　「見〝微〟知著――社区治理中的新媒体」『社会学研究』第三四巻第三号、一七〇－一九三、二四五頁

陳栄卓・劉亜楠　2019　「城市社区治理信息化的技術偏好与適応性変革――基于〝第三批全国社区治理与服務創新実験区〟的多案例分析」『社会主義研究』二〇一九年第四期、一一二－一二〇頁

仇惠棟　2020　「発力関鍵処 擦亮南京棲霞改革」『金招牌』二〇二〇年五月一一日 https://baijiahao.baidu.com/s?id=1663548917979476 26&wfr=spider&for=pc

戴金梁・丁炯炯・劉尚宝　2018　「〝大数據〟助推〝慧治理〟――〝運用大数據提昇社区治理智能化水平〟調研報告」『党政論壇』二〇一八年第九期、五二－五四頁

郭慧珍・毛甬津　2020　「社区治理中的新媒体――以天津市陽光壹佰和時代奥城社区為例」『新媒体研究』第六巻第一二号、一五－一八頁

韓志明・雷葉飛　2020　「技術治理的〝変〟与〝常〟――以南京市棲霞区〝掌上雲社区〟為例」『広西師範大学学報（哲学社会科学版）』第五六巻第二号、二三－三三頁

何紹輝　2019　「政策演進与城市社区治理七〇年（一九四九－二〇一九）」『求索』二〇一九年第三期、七九－八七頁

何暁斌・李政毅・盧春天　2020　「大数據技術下的基層社会治理――路径、問題和思考」『西安交通大学学報（社会科学版）』第四〇巻第一号、九七－一〇五頁

侯莉娜　2015　「聯洋六居委――〝互聯网＋〟思維融入社区治理」『浦東開発』二〇一五年第一一期、三八－四〇頁

黄仕玉　2019　「大数據時代背景下的基層社会治理研究――以貴陽市為例」『経済研究導刊』二〇一九年第一〇期、一五〇－一五二頁

江蘇省政府研究室調研組　2018　「集成改革造就社会治理良好生態」『中国経済時報』二〇一八年一一月九日 https://jjsb.cet.com.cn/show_504235.html

姜暁萍・張璇　2017　「智慧社区的関鍵問題――内涵、維度与質量標準」『上海行政学院学報』第一八巻第六号、四－一三頁

金台資訊　2020　「南京市棲霞区――〝掌上雲社区〟智慧治理筑牢基層共建共治共享新格局」二〇二〇年六月一五日 https://baijiahao.baidu.com/s?id=1669539244316557956&wfr=spider&for=pc

康之国　2019　「〝互聯網＋〟時代社区公共服務供給模式創新研究」『天津行政学院学報』第二一巻第六号、六〇－六七頁

李拔萃　2016　「大数據時代的基層社会治理創新」『管理観察』二〇一六年第一四期、三二－三四頁

李佳婧　2020　「從〝面向業務〟到〝面向治理〟――社区信息化的未来転向」『湖北行政学院学報』二〇二〇年第三期、四九－五五頁

李外禾　2019「大数據時代涪陵城市社区治理創新研究」『太原城市職業技術学院学報』二〇一九年第二期、一九八－一九九頁
梁肖月・羅家德　2019「城市社区自組織培育歴程研究――以大柵欄街道培育社区自組織為例」『国際社会科学雑誌（中文版）』第三六巻第一号、六〇－七四頁
梁欣　2019「城市智慧社区知識治理機制的構建――以沈陽市為例」『管理観察』二〇一九年第二二期、八九－九〇、九三頁
劉光明　2016「推進大数據時代社区治理和服務創新研究――以湖南省岳陽市岳陽楼区社区治理和服務創新実践為例」『雲夢学刊』第三七巻第四号、八五－九〇頁
劉暁川　2016「大数據背景下社区信息化建設対策研究」『安徽職業技術学院学報』第一五巻第四号、一二－一五、三五頁
柳森　2018「羅家德――社区営造、為更好的社区生活而生」『決策探索』（上）二〇一八年第一二期、八四－八五頁
閔学勤　2017a「通往協商的基層在線治理及其演化」『求索』二〇一七年第一一期、一一七－一二三頁
閔学勤　2017b「掌上社区――在線基層治理的探索」『学習時報』二〇一七年一月二三日 http://paper.cntheory.com/html/2017-01/23/nw.D110000xxsb_20170123_2-A4.htm
閔学勤・陳丹引　2019「平台型治理――通往城市共融的路径選択――基于中国十大城市調研的実証研究」『同済大学学報（社会科学版）』第三〇巻第五号、五六－六三頁
閔学勤・賀海蓉　2017「掌上社区――在線社会治理的可能及其可為――以南京棲霞区為例」『江蘇社会科学』二〇一七年第三期、六三－六九頁
閔学勤・李少茜　2017「社群社会視角下的在線基層治理研究」『河南社会科学』第二五巻第一一号、一一四－一一八頁
閔学勤・王友俊　2017「移動互聯網時代的在線協商治理――以社区微信群為例」『江蘇行政学院学報』二〇一七年第五期、一〇三－一〇八頁
聶磊　2017「〝互聯網＋〟背景下的社区雲服務的核心与趨勢」『上海行政学院学報』第一八巻第六号、一四－一八頁
棲霞区民政局　2020「〝楽享・賦能・善治〟、〝掌上雲社区〟擦亮棲霞治理品牌！」二〇二〇年七月一〇日 https://mp.weixin.qq.com/s/KPC8Wra0HQuZVzpS95q1EQ
棲霞区人民政府　2019「棲霞区做実社区微幸福項目――線上〝鍵盤侠〟変身社区〝熱心腸〟」二〇一九年八月九日 http://www.njqxq.gov.cn/qxzx/zwyw/201908/t20190809_1621280.html
唐鳴・李夢蘭　2019「城市社区治理社会化的要素嵌入与整体性建構――基于〝第三批全国社区治理和服務創新実験区〟的案例分析」『社会主義研究』二〇一九年第四期、一〇三－一一一頁
唐有財・張燕・于健寧　2019「社会治理智能化――価値、実践形態与実現路径」『上海行政学院学報』第二〇巻第四号、五四－六三頁
田勝松・徐颺・徐雲舟・羅学江・余紅　2016「南明区基層

社区運行体制改革実践与探索」『貴陽市委党校学報』二〇一六年第六期、二五－二九頁
童星　2012　「社会管理的組織創新――従〝網格連心、服務為先〟的〝仙林模式〟談起」『江蘇行政学院学報』二〇一二年第一期、五三－五六、六七頁
王聡・郜健・張永光　2020　「二〇万人同心協力　棲霞区掌上雲社区密織抗疫網」二〇二〇年三月七日 http://www.njdaily.cn/2020/0307/1830400.shtml
王木森　2017　「精細治理与精准服務――〝一站多居〟社区治理服務創新」『行政与法』二〇一七年第一一期、三七－四七頁
王萍・劉詩夢　2017　「従智能管理邁向智慧治理――以杭州市西湖区三墩鎮〝智慧社区〟為観察様本」『中共杭州市委党校学報』二〇一七年第一期、七五－八一頁
王強　2007　「治理与社会資本問題研究」『内蒙古民族大学学報（社会科学版）』二〇〇七年第二期、七四－七七頁
王素侠・孟凡会　2017　「供給側改革促進我国城市社区治理創新研究」『学術界』二〇一七年第七期、一八五－一九四頁
呉青熹　2017　「社会化媒体与大数据視野下的城市社区治理」『華東師範大学学報（哲学社会科学版）』第四九巻第六号、四三－五〇、一七〇頁
肖丹　2017　「〝互聯網＋〟視角下基層治理現代化模式創新探析――以深圳市福田区為例」『湘南学院学報』第三八巻第三号、二四－二八頁
徐向林　2016　「用〝互聯網＋〟創新社区治理」『群衆』二〇一六年第二期、四九－五〇頁
徐選国・呉佳峻　2020　「智慧社区建設的実践邏輯――基于対上海周鎮的経験研究」『城市観察』二〇二〇年第一期、一二〇－一三二頁
鄞益奮　2007　「網絡治理――公共管理的新框架」『公共管理学報』二〇〇七年第一期、八九－九六、一二六頁
袁野　2015　「網絡信息技術対社区治理変革発展的影響」『遼寧行政学院学報』二〇一五年第七期、六七－七〇頁
張文・王強・喬智・陳明達・唐玉春・曹立　2014　「大数据時代社会治理方式創新」『学習時報』二〇一四年一二月八日 http://paper.cntheory.com/html/2014-12/08/nw.D110000xxsb_20141208_1-A11.htm
趙汝周・岳鳳蘭　2015　「大数据時代城市社区治理新探索――成都市成華区的実践探索与啓示」『四川行政学院学報』二〇一五年第三期、三二－三五頁
朱琳・万遠英・戴小文　2017　「大数据時代的城市社区治理創新研究」『長白学刊』二〇一七年第六期、一一八－一二四頁
朱瑞　2016　「創新城市社会治理的路径選択」『宏観経済管理』二〇一六年第一〇期、四一－四四頁